

日時/会場	題目	座長	話題提供者	産長および話題提供者
【研01】 9月7日(水) 16:15-18:15 教育学部2号館 大講義室	水理・水文解析ソフトウェア統合型共通基盤の活用と普及に向けて 水工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/	山田 正 椎葉 充晴 大平 一典 山本 聡 五道 仁実 調整中 調整中	中央大学 京都大学 中央大学 国土技術政策総合研究所 国土交通省・河川局 国土交通省・地域整備局下水道部 建設コンサルタンツ協会 全国上下水道技術協会	水理・水文解析ソフトウェア統合型共通基盤であるCommonMPが公開されて1年半が経過した。この間、CommonMPの開発や運用・活用・普及に当たっては、産官学からなるコンソーシアムを構成しCommonMP普及のための方策を検討するとともに、CommonMPの改良やFortranプログラムのCommonMPへの組み込みなど、具体的なソフトウェアのバージョンアップを行ってきた。本討論会においては、コンソーシアムの活動内容を示すとともに、海外展開を含めて、今後のCommonMPの活用や普及に関する取り組みについて議論する。
【研02】 9月7日(水) 16:15-18:15 共通教育講義棟 講35	センサはどこまで標準化すべきか？ ー維持管理CALSに向けてー 情報利用技術委員会 http://committees.jsce.or.jp/cceips/	藤原 博 遠藤 和重 田島 剛之 石間 計夫 島田 芳夫 他1名	(株)ネクスコ東日本エンジニアリング 国土交通省 大日本コンサルタント(株) ジェイアール東日本コンサルタンツ(株) (有)T/WJ、次世代センサ協議会	情報利用技術委員会センサ利用技術小委員会では、高度なセンサ利用技術を活用して土木構造物の長期的な情報の収集・共有・利用を図る「維持管理CALS」を提案し、その実現に向けた取り組みを行っている。本研究討論会では、構造物の維持管理分野で使用される主なセンサの標準化に着目し、まず現在行われている標準化へ向けた取り組みの事例について基調報告を行う。そして、維持管理分野に特有の要求仕様を踏まえて、標準化が必要な部分とそうでない部分、標準化のあるべき姿、標準化による効果等についてユーザー側、メーカー側双方の視点から幅広く議論を行う。
【研03】 9月7日(水) 16:15-18:15 共通教育講義棟 講45	土木の広がりを考える～学問・芸術・報道・建設に携わる4人が土木について語る～ 建設技術研究委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/sekou/top.htm	吉田 明 藤井 聡 坂上 桂子 早坂 礼子	建設技術研究委員会委員長 大成建設(株) 土木本部技術顧問 京都大学大学院 工学研究科 教授 早稲田大学文学学術院 教授 産経新聞東京本社 編集局経済本部 編集委員	わが国は、長期にわたり経済の低迷が続き、社会資本の整備の遅れや国際競争力の低下を招くという深刻な状況にあります。東日本震災を含めてわが国が直面している状況を十分に理解し、今後土木が何をなすべきかしっかりと議論する必要があります。そのためには、既成の枠にとらわれることなく、広い視野をもって見つめなおすことが重要と考えています。 よって、本研究討論会では、学問・芸術・報道・建設の4つの異なる分野の方々から土木について自由に語っていただき、ご参加の皆さんとともに土木のいろいろな方々への広がり的重要性を感じ、そして大いに議論したいと考えております。
【研04】 9月7日(水) 16:15-18:15 共通教育北別棟 北41	市民力を生かした地域づくりの新たなしくみ コンサルタント委員会市民合意形成小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/index.asp	上野 俊司 森本 章倫 山中 英生 田邊 信男 林 将廣 伊藤 将司	国際航業株式会社 取締役 宇都宮大学大学院工学研究科 准教授 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス部 教授 西部技術コンサルタント アイ・エス・エス創研 株式会社福山コンサルタント	近年は厳しい財政下において行政のみによる公的サービスに限界から、地域防犯や防災への対応、買い物弱者への対応など、市民ニーズに対応した社会資本や公的サービスの低下が顕在化している。このような状況の中、市民が真に必要なとする社会資本及び公的サービスを提供するためには、市民力を生かした地域づくりの新たな仕組みづくりが望まれる。 本研究討論会においては、当委員会がこれまで活動してきた市民合意形成に関する研究成果も活かしながら、市民が主体となる活動を通じて実現する地域づくりの新たな仕組みを考察し、市民参加の方法や土木技術者・合意形成プロデューサーの役割などについての議論を行い、今後の方向を探ってみたい。
【研05】 9月7日(水) 16:15-18:15 法文学部講義棟 大講義室	次世代パソコンによる防災シミュレーションを目指して 応用力学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/amc/index.html	廣瀬 杜一 堀 宗朗 今村 文彦 古村 孝志 梶原 浩一	東京工業大学 東京大学 東北大学 東京大学 兵庫耐震工学研究センター	地震津波防災のための大規模数値解析は、2012年度の供用開始を目指して開発がすすめられている「次世代スーパーコンピュータ(京速コンピュータ「京」)」での重要課題のひとつに選ばれている。 本パネルディスカッションでは、地震・津波・構造物被害など、様々な観点からの防災シミュレーションの現状を把握するとともに、これらすべてを統合する「次世代パソコンを用いた地震津波防災の未来像」を提示することを目指して議論する
【研06】 9月7日(水) 16:15-18:15 共通教育講義棟 講24	舗装の性能を考える～舗装標準示方書の改訂に向けて～ 舗装工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/pavement/index.html	八谷好高 八谷好高 阿部長門 渡邊一弘 三野真治 黒川卓郎 坪川将丈	(財)港湾空港建設技術サービスセンター (財)港湾空港建設技術サービスセンター 東亜道路工業(株) (独)土木研究所 国土交通省四国地方整備局 ニレキ(株) 国土交通省国土技術政策総合研究所	2007年に舗装標準示方書が発行されて以来4年が経過し、性能に基づく設計、施工、点検、補修といった本示方書に明示された舗装の整備方法が認知されている。一方で、性能の照査方法が詳細にされていないといった問題点も残されている。本研究討論会では、現示方書の実用性について、アンケートにより調査した結果を紹介するとともに、性能設計の実務者から話題提供を求める。また、改訂に向けて取り込むべき新たな課題として舗装のユーザーサイドからの要求性能について話題提供をお願いするとともに、海外における舗装の性能設計の動向について話題提供をお願いする。
【研07】 9月7日(水) 16:15-18:15 共通教育講義棟 講21	リスク評価に基づく道路ネットワークの耐震設計法を目指して 土木計画学研究委員会・地震工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/ip/index.shtml http://www.jsce.or.jp/committee/eeec2/index.html	多々納裕一 澤田 純男 澤田 純男 中村 晋 酒井 久和 奥村 誠 朝倉 康夫	京都大学防災研究所 京都大学防災研究所 京都大学防災研究所 日本大学 広島工業大学 東北大学東北アジア研究センター 東京工業大学大学院工学研究科	土木計画学委員会と地震工学委員会の合同設置の共同研究小委員会「リスク評価に基づく道路構造物・道路ネットワークの耐震設計研究小委員会」では、道路ネットワークの各リンクの耐震性能の設計と、リンクの要求性能を所与とした場合の個別道路構造物の耐震設計とからなる2段階の耐震設計法の体系の確立が必要であるとの認識のもとで、共同研究を進めてきた。本研究小委員会では、リスク評価に基づいて道路ネットワークの耐震設計法を構成する際の主要な論点を整理すると共に、道路構造物及び道路ネットワークの新しい耐震設計法の確立を目指して、総合的な議論を行うこととする。
【研08】 9月7日(水) 16:15-18:15 共通教育講義棟 講11	東日本大震災における土木構造物の被害と教訓 コンクリート委員会・構造工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/index.html http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm	鈴木 基行 丸山 久一 岩城 一郎 陸好 宏史 岩波 光保 野澤伸一郎 木水 隆夫	コンクリート委員会・構造工学委員会合同調査団団長 長岡技術科学大学(土木学会第一次調査団 総合構造物班長) 日本大学(コンクリート委員会・構造工学委員会合同調査団) 埼玉大学(構造工学委員会特別研究委員会委員長) 港湾空港技術研究所 構造研究チーム JR東日本 構造技術センター NEXCO東日本 技術本部 技術部	平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、鉄道、道路、港湾施設等の鋼構造物・コンクリート構造物にも被害が生じた。コンクリート委員会と構造工学委員会は合同で現地調査を行い、分析検討を進めた。それらを通じて明らかとなった被害の特徴、耐震設計・耐震補強の有効性の検証、復旧過程の検証、今後の耐震設計、維持管理に向けての教訓について、討論を行う。

日時/会場	題目	座長および話題提供者
【研09】 9月7日(水) 16:15-18:15 法文学部講義棟 305	近年、多発する道路盛土の地震被害を将来の警鐘として捉え、備える一経済的・効果的な性能評価、性能設計および耐震補強— 地震工学委員会 性能を考慮した道路盛土の耐震設計・耐震補強に関する研究小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/eec2/index.html	座長 常田 賢一 大阪大学大学院工学研究科 話題提供者 横田 聖哉 高速道路総合技術研究所 佐々木 哲也 土木研究所 林 健二 フォレストエンジニアリング 一井 康二 広島大学大学院工学研究科 小田 和広 大阪大学大学院工学研究科 原 隆史 岐阜大学工学部
【研10】 9月7日(水) 16:15-18:15 法文学部講義棟 201	異種材料をつなぐ！ 一接合技術の現状、要求性能および課題— 複合構造委員会 http://www.ccn.yamanashi.ac.jp/~ssaito/jsce/fukugou/	座長 杉浦 邦征 京都大学 教授、複合構造委員会委員長 話題提供者 中島 章典 宇都宮大学 教授、複合構造ずれ止めの性能評価法に関する調査研究小委員会 上田 多門 北海道大学 教授、樹脂材料による複合技術研究小委員会 春日 昭夫 三井住友建設 土木本部 副本部長 杉本 一朗 (公財)鉄道総合技術研究所 構造物技術研究部 鋼・複合構造研究室長
【研11】 9月7日(水) 16:15-18:15 法文学部講義棟 101	道路橋床版の性能はどう変わるか ～維持管理評価と将来～ 鋼構造委員会 http://committees.jsce.or.jp/steel/	座長 野上 邦栄 首都大学東京 話題提供者 大田 孝二 (財)土木研究センター 緒方 辰男 西日本高速道路(株) 橋 吉宏 (社)日本橋梁建設協会 下里 哲弘 琉球大学
【研12】 9月7日(水) 16:15-18:15 工学部講義棟 25	建設業の国際展開を考える 建設マネジメント委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/cmc/	座長 小澤 一雅 東京大学 話題提供者 奥村 康博 国土交通省 杉 農 佐藤工業(株) 富田 伸司 榊富田組 廣瀬 典昭 日本工営(株) 福本 勝司 榊大林組 保崎 康夫 西日本高速道路(株)
【研13】 9月7日(水) 16:15-18:15 教育学部2号館 103	土木分野における木材利用入門 ～土木分野における環境貢献に向けて 木材工学特別委員会 http://tbl.tec.fukuoka-u.ac.jp/jsce-wood/	座長 今村 祐嗣 京都大学名誉教授 話題提供者 加用 千裕 国立環境研究所 渡辺 浩 福岡大学 池田 稔 ハザマ
【研14】 9月7日(水) 16:15-18:15 工学部講義棟 41	土砂動態学：広域および長期の国土保全に向けた学際的取り組み 地盤工学委員会(土砂侵食と運搬、堆積に関する学際研究小委員会) http://www.jsce.or.jp/committee/jiban/	座長 前田 健一 名古屋工業大学 話題提供者 田島 芳満 東京大学工学系研究科社会基盤学専攻 成瀬 元 千葉大学理学研究科 地球科学コース 佐々 真志 (独)港湾空港技術研究所地盤・構造部 知花 武佳 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 前田 健一 名古屋工業大学都市社会工学科

近年、地震による道路盛土の被害が顕在化している。地震に対して、安全な社会基盤を整備、保全するためには、バランス良い耐震性能を有する道路ネットワークが必要であり、その構成要素である道路盛土の適切な耐震設計・補強が求められる。道路盛土では、2009年に道路土工要綱で性能設計が明示され、緊急点検が鋭意実施されており、性能を考慮した効果的かつ経済的な道路盛土の耐震設計・補強の具体化が必要である。このような緊要な状況を踏まえ、研究討論会では、道路盛土に関する性能評価、性能設計及び経済的・効果的な耐震設計・補強技術に関する近年の研究、技術開発成果を概観するとともに、将来の道路盛土の耐震性向上を考えたい。

近年、鋼とコンクリートの合成構造や混合構造を採用した数多く種類の複合構造物が建設されています。このような現状を振り返ると、これまで数多くの接合形式が考案され、各種実験や解析検討を行ったうえで、設計、施工されています。これらの接合部の設計、施工技術について、要求性能、荷重伝達機構、終局強度等を整理しておくことが重要となります。そこで、機械的なずれ止め、樹脂材料による接着的な接合、プレストレスを用いた接合等の分野の学術研究権威や経験豊富な技術者から、その設計、施工事例、要求性能ならびに課題についての話題提供を頂き、今後さらなる発展に向けて討議を行います。具体的には、この討議結果を踏まえ、複合構造委員会が2009年に発刊した「複合構造標準示方書」の今後の改定作業のための有益な情報と位置づけます。本討論会は、複合構造接合部に関する研究開発、設計、施工など幅広い分野技術者を対象に、最新の接合技術情報の共有化と残された課題を明確にすることが目的であり、未来を見据えた幅広い活動に繋げたいと考えています。

最近、優れた施工性や経済性を有する少数桁橋、開断面箱桁橋、細幅箱桁橋や合理化トラス橋などの新しい鋼橋の採用事例が増加している。これに伴い道路橋として最もクリティカルになる床版についても、一般橋梁、長大橋および都市高架橋に多く採用されている従来のRC床版および鋼床版とともに、より疲労耐久性のある、ライフサイクルコストの低減などを可能にする床版形式の開発が進められ、実用化が図られてきている。このような状況において、これまで種々の床版いずれも損傷が発生する都度その問題を解決してきた中で、これからの道路橋床版の性能はどう変わるべきなのかを主テーマに、維持管理および性能評価のあり方、床版の将来に向けた展開などについて探ります。

建設マネジメント委員会では、平成22年3月に「インフラチームジャパンを世界へ！」と題する提言を公表し、平成22年度には国際展開推進・公共事業改革・国際連携の3つの特別小委員会を設けて、わが国建設業の国際展開や公共事業制度の改革等について議論し、海外との連携強化の取組を実施してきた。本討論会では、これらの検討成果も踏まえて、わが国のインフラ整備の経験と強みを活かして、一体のものとして国際展開するための課題と推進方策を討議する。

地球環境問題への取り組みが進められる中、森林の役割と木材資源の活用がクローズアップされています。残念ながら土木分野ではその取り組みはまだ低調ですが、その背景には木材に関する知識や情報不足に加え、数多くの誤解があるようです。そこで本研究討論会では、より多くの会員に木材とその活用法を知っていただくため、木材利用を進める意義とメリット、木材を活かすための材料学的知識、利用技術の現状と将来展望の3方向から、さらなる木材利用の可能性を探ります。また、それらを通じて土木分野における環境貢献について共に考えていきます。

地球科学的時間スケールで見た地形・地質形成過程は、地学分野の研究対象であるが、一方で数年～数百年といった時間スケールでの侵食・運搬・堆積現象は、土木工学の諸分野で多様な問題(山地での土砂侵食や斜面崩壊、平野部での河床変動や海岸侵食、それらに伴う構造物の維持管理問題や環境問題など)を生み出す。これらの課題は、時間軸および空間スケールに対するマルチスケール問題であり、観測等の現状把握がしにくい、力学的モデリングがしにくい、といった困難がある。本研究討論会では、東日本大震災での被害と復興問題も含め、これまで様々な分野で行われてきた取り組みを俯瞰し、今後の学際的研究の方向性について議論する。

日時/会場	題目	座長 話題提供者	座長および話題提供者
【研15】 9月9日(金) 12:40-14:40 共通教育講義棟 講21	電子出版・電子書籍の時代と土木工学の知の生産・流通 土木図書館委員会 http://committees.jsce.or.jp/lib/	座長 五十畑 弘 話題提供者 三上 市藏 未定 未定 未定 今 尚之 坂本 真至	土木図書館委員会委員長/日本大学生産工学部教授 関西大学名誉教授(キーノート) 土木学会誌編集委員会(学会誌と電子出版) 土木学会論文編集委員会(学会論文集と電子出版) 森北出版編集部(学術出版と電子出版) 北海道教育大学教育学部(電子出版・電子書籍と教育) 土木学会土木図書館(土木図書館と電子出版)
【研16】 9月9日(金) 12:40-14:40 教育学部2号館 大講義室	土木分野におけるNPO活動と土木学会の役割 教育企画・人材育成委員会 http://committees.jsce.or.jp/education/	座長 駒田智久 話題提供者 渡辺法美 有岡正樹 竹内よし子	(株)エイト日本技術開発 高知工科大学 NPO法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 NPO法人えひめグローバルネットワーク
【研17】 9月9日(金) 12:40-14:40 教育学部2号館 103	災害記録映像で学ぶ防災技術教育(その2)副題 一技術教育における映像メディアの効果その4- 土木技術映像委員会 http://committees.jsce.or.jp/avc/	座長 大野 春雄 話題提供者 正木 啓子 (予定) その他	(土木技術映像委員長) 建設教育研究推進機構理事長 大阪ガス
【研18】 9月9日(金) 12:40-14:40 法文学部講義棟 大講義室	今後の土木構造物のライフサイクルマネジメントのあり方について-道路構造物を例として- 構造工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm	座長 鈴木 基行 話題提供者 岩城 一郎 久田 真 白土 博通 中島 章典 吉見 雅行 松島 学 高野 卓	東北大学 日本大学 東北大学 京都大学 宇都宮大学 産業技術総合研究所 香川大学 福島市
【研19】 9月9日(金) 12:40-14:40 法文学部講義棟 201	学会における設計資料の標準化とそのあるべき姿について考える 地震工学委員会・耐震基準小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/eec2/index.html	座長 中村 晋 話題提供者 長尾 敦 (調整中) 室野 剛隆 北原武嗣 渡辺 忠朋 西村 和夫 江尻 祥司	日本大学工学部土木工学科 国土交通省国土技術政策総合研究所 (財)鉄道総合技術研究所構造物技術研究所 関東学院大学工学部社会環境システム学科 北武コンサルタント(株) 首都大学東京・環境学部 都市基盤環境コース 大林組技術研究所
【研20】 9月9日(金) 12:40-14:40 共通教育北別棟 北41	震災復興と地球環境問題(仮題) 地球環境委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/global/index.htm	座長 話題提供者	
【研21】 9月9日(金) 12:40-14:40 工学部講義棟 41	国際リニアコライダ(ILC)施設の土木工事に関するガイドラインの策定 岩盤力学委員会国際リニアコライダ施設の土木工事に関する標準示方書策定小委員会 http://committees.jsce.or.jp/rm/	座長 近久 博志 話題提供者 宮原 正信 (予定) 真下 英人 西本 吉伸 中野 清人 岡部 治正 深沢 成年 來山 尚義	国立大学法人 山口大学 高エネルギー加速器研究機構 土木研究所 電源開発 高速度道路総合技術研究所 日建設計 鉄道建設運輸施設整備支援機構 復建調査設計
【研22】 9月9日(金) 12:40-14:40 法文学部講義棟 101	放射性廃棄物処分新たな展開(仮称) エネルギー委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/enedobo/energydoboku.html	座長 大西有三 話題提供者 河西 基 (予定) 他3名程度未定	京都大学副学長 電力中央研究所

日時/会場	題目	座長	話題提供者	座長および話題提供者
【研23】 9月9日(金) 12:40-14:40 法文学部講義棟 305	公共事業縮小の時代における地域防災の担い手育成の課題 地震工学委員会防災企画推進小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/eec2/index.html	佐伯 光昭 三上 卓 中野 晋 尾崎 浩二 石橋 良啓	座長 話題提供者	防災企画推進小委員会委員、エイト日本技術開発副社長 防災企画推進小委員会副委員長、群馬高専准教授 徳島大学教授 環境防災研究センター 副センター長 久保興業(株)社長 国土省四国地方整備局企画部長
【研24】 9月9日(金) 12:40-14:40 共通教育講義棟 講11	先輩に聞く—環境工学の将来— 環境工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/eec/index.html	大村 達夫 須藤 隆一 盛岡 通	座長 話題提供者 (予定)	東北大学工学研究科 埼玉県環境科学国際センター 関西大学
【研25】 9月9日(金) 12:40-14:40 共通教育講義棟 講24	土木の広報戦略 ～「知らせる」から「共築」へ～ 社会コミュニケーション委員会 http://committees.jsce.or.jp/publicity/	緒方 英樹 岡田 昌彰 小松 淳 高橋 薫 宮田 喜壽	座長 話題提供者	社会コミュニケーション委員会・全国建設研修センター 景観・土木史、近畿大学 社会コミュニケーション委員会Web部会長、情報利用技術委員会副委員長・日本工営 社会コミュニケーション委員会・大成建設 企画委員会副幹事長・防衛大学校
【研26】 9月9日(金) 12:40-14:40 共通教育講義棟 講45	これからの時代の技術者・研究者に求められる倫理・行動規範 倫理・社会規範委員会・企画運営小委員会 http://committees.jsce.or.jp/rinri/node/7	皆川 勝 未定	座長(予定) 話題提供者	東京都市大学
【研27】 9月9日(金) 12:40-14:40 共通教育講義棟 講35	BCP(事業継続計画)を巡る課題と動向 ～安全・安心・安定な社会作りへのアプローチ～ 安全問題研究委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/csp/csp1.htm	白木 渡 井上 晋一 大嶋 勝利 須藤 英明 磯打 千雅子 未定 未定	座長 話題提供者 (予定)	香川大学 東日本旅客鉄道株 独)労働安全衛生総合研究所 鹿島建設株 日本ミクニヤ株 国土交通省 防災関係のNPO

大地震など、突発的な災害が発生した場合に、地域の救急救命活動の支援、災害拡大の防止、緊急復旧などには、日頃からその地域で活動している建設業関係者の活躍が極めて重要である。ところが、近年の公共事業の縮小により、その災害対応力が著しく低下している現実がある。この研究討論会では、防災企画推進小委員会が土木学会重点研究課題「建設従事者の災害緊急対応体験談の聞き取りとアーカイブ化」のために実施した6地震49名へのヒアリング結果から見てきた課題を紹介し、学識者、地域でBCP等に取り組んでいる建設業者、それに行政関係者に登壇いただいた、土木学会として社会に発信すべき内容を議論する。

環境工学は幅広い分野から成り立っており、著名な研究者の方々はそれぞれが独自の工夫と努力によって最先端を極められ、若い研究者には学ぶべき点が多々ある。本企画は、長年にわたって第一線で研究を続けてこられた著名な先生をお招きし、環境工学分野での研究に対する取り組み、考え方、将来への展望、若い研究者に望むこと等を話して頂くものであり、これまでに3回同タイトルで企画し、大変好評を得てきた。本年度も著名な二名の講師の招聘し本音のトーク、後輩への熱いメッセージを語っていただくとともに、講演後、会場の参加者と環境工学分野の将来像について意見交換を行う。

一般社会や市民へ土木の役割や価値を正しく、わかりやすく伝えるために、今まで効果的で戦略的なミッションがなされてきたとは言い難い。しかし今後、土木に関する事業や土木に関わる技術者の、世の中でのステータスを上げ、一般市民との信頼関係を保ちながら意識と情報を共有していくためには、従来からの土木の啓蒙活動やイベント活動などを行っていただくだけでなく、外部への情報発信を効果的な戦略に基づいて実施していき、住民の理解・信頼を得ながら共々に社会を<築>いていく方向性が求められる。本戦略における土木広報の眼目は、公共の基盤を守り、整えるサービスマネジメントの価値、それらを提供する土木技術者の役割を正しく伝達・共有することによって、社会や住民とともに健全で良好な社会づくりを進めていくことにある。

そのためには、土木学会が土木と社会をつなぐプロデュース的な役割を担って、正確で高品質な情報を発信するだけでなく、土木学会員一人一人が「土木の語り部」となって市民目線の双方向的なコミュニケーション形成を身近なところから積み重ね、「土木」が人々の暮らしを支えている理解と信頼感を醸成していく必要がある。さらに、従来にない具体的な視点として、他分野で先行する広報手法の応用、歴史資産や土木学習との連携、市民から動き出したコミュニティとの運動、ネット社会への新たな情報発信の活用なども効果的な道筋となるだろう。そして実は、そうした萌芽は、各所で見られ始めていて、既に「新たな土木広報の時代」へ入ろうとしている。

こうした背景の中で、本テーマは土木学会100周年に向けて、今後3年間にわたり研究討論会で段階的に議論を重ねていきたいと考えている

土木学会では、1999年に「土木技術者の倫理規定」を制定し、これに基づいて倫理に関する教育・啓発活動を行うとともに、書籍発刊、教材開発、講習活動等を行ってきた。2007年には、教育啓発活動をその活動範囲に含む倫理・社会規範委員会が設置され、より広範な倫理に関わる活動を展開することとなった。さらに、学会員あるいは土木技術者が倫理に関する問題にかかわった場合の学会としての取り組みに関する新たな枠組みを策定し、公益法人化後に施行することになった。これらの活動を踏まえ、本討論会においては、技術倫理に関わる諸問題について会員の広範な議論を展開し、これからの時代の土木技術者・研究者に求められる倫理・行動規範に関する学会としての方向性を考えるための一助としたいと考えている。

3月11日に発生したM9.0の巨大地震は、東北から関東に及ぶ広範囲に被害をもたらし、我が国がこれまで経験したことがない大規模広域災害(東北関東大震災)となった。大規模地震・津波災害に、原子力発電所被害が加わり、想定外の未曾有の大惨事となった。災害後1週間経った3月18日現在においても、被害の実態が把握されていない状況である。我が国では、さらに東海、東南海、南海地震が近い将来必ず発生するとされている。今度こそ想定外で済ませないように、災害からの「早期復旧」に焦点をあて、「被災地住民の生活を守るBCP」のあり方、組織間連携のあり方について議論を深め、土木学会としての提言等に繋げたいと考えている。